

新 任 の 挨 拶

江 上 信 雄

このたび、はからずも理学部長に併任されました。
マイナスシーリングが叫ばれている時世でありますので
いろいろ困難が予想されます。
理学部の皆様どうかよろしくお願い申し上げます。

理 学 部 広 報 に よ せ て

江 上 信 雄

昭和57年3月の末頃、化学教室の露木さんから
お電話で、「今回広報の編集委員長をお引き受け
することになったが広報についての御意見を伺い
たい」という主旨の御依頼があった。ふだん広報
についてあまり関心を持たなかった私は、正直に
言って戸惑った。「広報を継続するかどうかを含
めてのお返事を」との事である。確かにこのよう
なパンフレット類があちこちにあふれているし、
それらに予算と労力を使うことの無駄を私自身考
えたこともある。また同僚から広報無用論を聞か
されたこともある。しかし、勿論有用性も頭に浮
んだ。そこで咄嗟に「今ここでの廃止は適当と思
わないが、なるべく有意義に編集して下さい。」旨、
お答えした。直ちに「それではなにが有意義な学
部長新任挨拶を1ページ分書いて下さい。」という
ことになり、無理な注文をしてしまった手前、筆
をとらなければならなくなった次第である。

広報にはいくつかの面が期待される。第一は学
部内の出来事やその対応の速報である。隔月発行
の現状ではこの機能は望めそうもない。但し、緊
急な場合に号外発行の余地はあろう。第二は記録

としての意味である。卒業生の氏名、学位論文の
表題、理学部の人事異動、メンバーの研究課題等
等の通知、連絡記録であり、この場合は記事の正
確性と長期にわたって同じスタイルで継続するこ
とが必要であろう。第三はメンバーの間の研究情
報交換の場としての意味である。現在の研究内容
は極めて広汎で、しかも研究室が遠く離れていて相
互理解が困難な点をカバーし、少しでも各人の研
究に役に立ち、ヒントが得られる記事が期待され
る。そこまで広報に頼るのは無理かもしれないが
やはりもっとも重要な点であろう。第四に従来の
バックナンバーをパラパラみると、ときとしてと
ても含蓄のあるロマンにみちたエッセイやイラスト
や写真が見受けられる。心の休まる爽やかなバ
ラエティに富んだ見もの、読みものを最後に期待
したい。理学部にはこの点でも有能な方々が少く
ないようであるから。